



# 釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の  
横顔

□下□

## 毎年精力的に 個展を開催

加藤さんの創作活動で  
ある金属工芸―鑄金は、  
金属を鑄型に溶かし込ん  
で制作する。そうした仕  
事ぶりから加藤さんは  
「僕は鍛冶屋職人みたい

なもの」と自ら言う。そ  
の言葉通り道教大釧路校  
助教授としての仕事場・  
教室は鍛冶屋風景そのま

まだ。アトリエとか工房  
という表現はまだやさし  
く、加藤さんが作業衣に  
ゴム長をはき、全身を汗  
みづくにして制作に打ち

込む所は工場の名がふさ  
わしい。この苦心から生

まれた作品を加藤さんは  
「これで良いのかと、い



加藤直樹さん(四九)

(釧路市貝塚二の二)

道教育大釧路校助教授

# 新風で作品の鑄金

## かさ柔らかさせる忘れ金属

つも恥ずかしい思いが消  
えない」と見つめる。  
昭和五十一年の全道展  
初出品の立体作品で、い  
きなり札幌市長賞を受け

時計台ギャラリーでも個  
展を、さらに来年九月に  
も札幌での個展を予定し  
ている。加藤さんが制作  
する鑄金作品の一つ、風  
のかたち「シリーズは、  
意志をひそめたような自  
然の風に心を寄り添わせ  
て、大胆な創造の結晶を  
見せた作品群。金属とい  
うその本質を忘れさせる  
柔らかさと温かさは、美  
を憧憬する作家の人間味  
を伝えてくれそう。

### 演劇活動に も打ち込む

加藤さんはかつて本紙  
に寄せた一文に「私はひ  
そかに、このお月様であ  
る円、石である四角、森

である三角を私なりに彫  
刻にしてみたい」と綴つ  
たが、素朴な自然の形体  
から自作のテーマをつた  
い上げようとする作家の  
感性がにじんでくる。こ  
の加藤さんは市内の劇団  
北芸(第一回釧新郷土芸  
術賞受賞)代表として、  
演劇活動にも長年打ち込  
んできた。「この受賞は私  
個人として面映ゆいほ  
ど。演劇に支えられて美  
術作品も生まれてくる思  
いで、劇団にも半分与え  
られたようなうれしさで  
す」と加藤さんは言う。  
絵画中心の釧路美術界に  
加藤さんの現代美術作品  
は、今後も新風を送り続  
けていきそうだ。

た後は公募展への出品を  
やめ、後進への指導に専  
念しつつ平成三年から釧  
路市内のミヤタ画廊で個  
展を開き、昨春秋は札幌

